



シラバス参照

講義名	生命倫理学		
(副題)	1M		
開講責任部署	保健科学部臨床検査学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義・演習
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日		代表時限	
校地	岐阜医療科学大学 関キャンパス		
実務経験のある教員による授業科目 (○/×)	×		
科目概要・必修/選択	基礎分野 人文・社会科学・必修		
対象学科・年次	臨床検査学科 1年		
ナンバリングコード	HM_GNS_HSS_1_02		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤 太喜子	保健科学部 放射線技術学科

授業概要	本講義では、生命倫理学領域で問題とされることがらについて、どこがどのように問題であるかを各自が理解することを目標とする。授業では、既にある法律、指針、ガイドライン等を知るとともに、過去の判例や事件等の基本知識を理解することに重点を置く。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インフォームド・コンセントという言葉の来歴と意味をわかりやすく説明することができる。 ・ヘルシンキ宣言やリスボン宣言の内容を理解する。 ・ビーチャムとチルドレスの四原則について説明することができる。
教員の実務経験	なし

授業計画表

回	担当教員	テーマ	内容
第1回	加藤 太喜子	生命倫理学の成立	生命倫理学という領域の来歴について学ぶ。ニュルンベルク綱領について学ぶ。
第2回	加藤 太喜子	生命倫理概論、生命倫理理論	タスキギー事件やウィローブルック事件について理解する。
第3回	加藤 太喜子	インフォームド・コンセント1	日弁連のインフォームド・コンセントの解説などを手掛かりに、インフォームド・コンセントについて理解を深める。
第4回	加藤 太喜子	インフォームド・コンセント2	インフォームド・コンセントのポイントや問題点を再度確認する。教科書は第3勝を参照する。
第5回	加藤 太喜子	生殖技術・出生前診断1	生殖技術と出生前診断の問題点について検討する。教科書は第4章、第5章を参照する。
第6回	加藤 太喜子	生殖技術・出生前診断2	生殖技術と出生前診断の問題点について検討する。教科書は第4章、第5章を参照する。
第7回	加藤 太喜子	脳死・臓器移植の問題	移植医療の問題点を理解する。教科書は第6章を参照する。
第8回	加藤 太喜子	終末期をめぐる問題1	クインラン事件やクルーザン事件をはじめ、わが国でも問題となったいくつかの事例とともに、終末期医療の問題点について検討する。教科書は第7章を参照する。
第9回	加藤 太喜子	終末期をめぐる問題2	クインラン事件やクルーザン事件をはじめ、わが国でも問題となったいくつかの事例とともに、終末期医療の問題点について検討する。教科書は第7章を参照する。

第10回	加藤 太喜子	胎児・小児をめぐる諸問題 1	新生児医療や小児医療における意思決定について、medical futilityをキーワードに理解を深める。教科書は第9章を参照する
第11回	加藤 太喜子	胎児・小児をめぐる諸問題 2	新生児医療や小児医療における意思決定について、medical futilityをキーワードに理解を深める。教科書は第9章を参照する
第12回	加藤 太喜子	優生思想 1	優生思想について概説したのち、視聴覚教材を用いて優生思想について理解を深める。
第13回	加藤 太喜子	優生思想 2	視聴覚教材を用いて優生思想について理解を深める。
第14回	加藤 太喜子	看護倫理・薬学倫理	看護倫理と薬害について学ぶ。教科書は第8章と第16章を参照する。
第15回	加藤 太喜子	まとめ	これまでのまとめを行う。

学位授与の方針との関連性	関心・意欲 態度 技能・表現
準備学習の内容	事前：日頃から医療倫理に関する話題について興味を持ち、新聞や雑誌の関連記事に目を通しておく。(2時間) 事後：授業で用いられたキーワードについて復習を行う。(2時間)
成績評価基準	患者の権利についての基本知識を理解できていること。
成績評価方法	授業で課すレポート課題の合計点により評価する。
課題へのフィードバック等	授業で解説を行う。
学生へのメッセージ	この授業では、生命倫理学に関する基礎知識を身につけることを目標としている。医療人として知っておかなければならないいくつかの用語については、授業中に整理してその場で覚えるよう、各自努力されたい。
オフィスアワー	各学期ごとに掲示板にて連絡する。
教科書	塚田敬義・前田和彦編『生命倫理・医事法第3版』医療科学社
参考書	ビーチャム・チルドレス『生命医学倫理』麗澤大学出版会 森田達也・田代志門『鎮静と安楽死のグレーゾーンを問う』中外医学社 児玉真美『安楽死が合法の国で起こっていること』ちくま新書 森下直貴・佐野誠『新版「生きるに値しない命」とは誰のことか』中央公論新社 盛永審一郎『安楽死を考えるために 思いやりモデルとリベラルモデルの各国比較』丸善出版

[ウインドウを閉じる](#)